

癌患者の死亡原因の多くは“転移”によるものであり、予後の改善には転移の抑制的制御が極めて重要である。しかし、現行の癌治療は、殺細胞効果を発揮する化学療法や、分子標的剤等の原発巣を標的としたものが中心であり、“転移”を標的とした治療法は少ない。

心房性ナトリウム利尿ペプチド (Atrial natriuretic peptide: ANP) は、急性心不全治療薬として臨床応用されており、これまでに様々な心血管保護作用を有することが報告されている。我々は肺癌手術の際、術中より3日間 ANP を持続投与することによって、術後心肺合併症を有意に軽減できること、さらには術後無再発生存率を有意に改善できることを報告した。癌転移抑制機序として、ANP は血管 E-セレクチンの発現を抑制することによって、癌細胞の血管への接着を防ぐことを明らかにした。これらの研究成果を基に、現在我々は、多施設共同無作為化比較試験 (JANP study) を開始しており、ANP の“抗転移作用”について前向きに検証を行っている。

肺癌周術期 ANP 投与による術後再発抑制効果のメカニズム

ANPは何故周術期投与で癌転移を抑制したのか？

